



巡礼その六十四 大阪

2023年10月17日

今回は大阪の十三仏と茨木の隠れキリシオンを見学する。5時30分にタクシーで恵比寿へ。品川で6時28分のヒカリで新大阪に9時30分に着く。品川でサンドウィッチを買う。京都駅のホームではなんと80%の人が外国人！新大阪駅はよくわからないので日産レンタカーまで迷う。マーチを借りて出発。最初の河内長野市にあるキリシタン十三仏まで1時間半もかかる。大阪の街を抜け奈良県の橋本に向かって南下する。どんどん山の中に入っていく、流谷という集落の民家を抜けたところにキリシタン十三仏はある。普通の十三仏であるがテウロ、シタニなどの名前が刻まれている。ここから南河内へ戻る途中、ローソンでおにぎりをかう。最近のおにぎりはとても美味しい。羽曳野にある杜本神社にある隼人石（獣面人身の線刻）を見に行くが、本殿の中にあるのでお祓いをしてからでないと見学できないと言われ諦める。その後この辺りの十三仏を見学する。八尾、東大阪、寝屋川と奈良県の山の下町はとても道が狭く、しかも一方通行ではないので大変である。さらに坂になっており、所々左右に側溝があり大変である。田舎では細い道はたくさん通ってきたが、ほとんど対向車はこない。ここは町の中なのでこの細い道で道を譲り合わなければならない。慣れないドライバーには冷や汗ものである。その中でも慈光寺は大変である。酷道で有名な国道308号線の曲がりくねった一車線の急坂を登っていく。対向車が来たら終わりである。以前奈良側から暗峠まで行ったことがあったが、もう二度と来ないと誓った道である。慈光寺は暗峠の少し下の道を山の中に入っていくところとあり、ここに来るためにはこの道しかない。寺は幽玄の世界で素晴らしい。十三仏も良い出来であった。ドキドキしながら東大阪の町に戻る。本日の宿は東大阪のビジネスホテル「ホテル サン・マルコ」である。部屋はとても広くダブルベッドのツインである。風呂も広く洗い場がありゆったりしている。夕食は近くの焼肉屋へ行くことにした。ひととおり頼み、シメはコムタンラーメンを食べる。ホテルに戻り、サッカーを見て寝る。

10月18日

6時起床、6時30分朝食。1階の食堂へ行く。なんとほとんどの人がすでに朝食を食べている。さすがビジネスホテルである。ここの朝食は近所のパン屋さんが出来立てを届けてくれるのでパンが美味しい。クロワッサン、ソーセージパン、コーンマヨ、メロンパン、クリームパンなどがあり、キャベツのサラダ、ポテトサラダ、ゆで卵、ヨーグルト、牛乳、オレンジジュースなどもある。コーヒーはマシンで挽いて入れるので美味しい。このホテルはコスパが高い。今日は昨日行けなかったところを回る。道が狭くもう二度と行きたくない場所である。不思議なのは街中のお寺には駐車場がないところがほとんどである。東京ではお寺には駐車場が必ずある。また周りにコインパーキングもない。見学を終了しいよいよ高山右近と隠れキリシタンの旅である。まず高槻市にあるカトリック高槻教会・高山右近記念聖堂へ行く。高山右近像を見て、教会の中に入る。とても落ち着いた教会で正面右側に素晴らしい高山右近の絵が掛かり、左側には日本26聖人殉教の碑が掲げられている。茨木市に向かい山の中に入って行く。茨木市キリシタン遺物資料館は千提寺の集落にひっそりと佇む。教科書で有名なザビエルの絵はここで見つかった。小さな資料館であるが「マリア十五玄義図」、「キリスト磔刑木像」「キリシオン墓碑」やメダライ、マリア像など貴重な史料が公開されている。私が興味を持ったのは「厨子入象牙彫キリスト磔刑像」である。素晴らしい意匠と出来である。芸術的価値が高いと思われる。この付近には高槻城主だったキリシタン大名・高山右近の影響から多くのキリスト教信者が暮らしており、キリスト教禁制後も、信者たちは「隠れキリシタン」として、この千提寺の集落で人目を避け、密かに信仰を守りつづけていた。1919年にキリシオン研究家の藤波大超氏によって、ここが隠れキリシタンの里であることが発見されたことをきっかけに、付近の多くの家から隠れキリシタン遺物が再発見された。ここを出て高山右近の誕生の地である豊能町へ行く。豊能町付近は以前、多尊石仏を見るために訪れている。道もなんとなく覚えている。誕生の地の碑、キリスト教禁止令の高札が立てられた場所、右近・妻の志野像、などを見学する。母の高山マリアの墓が裏山にあるので行ってみたが、見つけるのが大変であった。昼食は道路沿いにあるたこ焼きの店で、焼きそばとたこ焼き、イカの姿焼きを外のテーブルで食べる。天気も良くとても心地やかである。この季節はどこへ行っても金木犀が匂ってくる。本日の見学は終了して、本日の宿のある有馬温泉を目指す。途中高速道路に乗り、1時間で有馬温泉に着く。駅の周りには人が結構いる。アジア人の観光客も結構いる。「陶泉 御坊所」は温泉の中心部にあり有馬川に佇む有馬温泉最古の宿である。私好みの木造温泉宿である。部屋は2階の浴場に一番近い部屋でセミダブルのツインである。川に面してロケーションもよく、ライ

ティングデスクがあるのが嬉しい。まずは風呂へ行く。有馬温泉のお湯は「金泉」と呼ばれ鉄分を含んだ黄金のお湯として有名である。入り口は男女別でそれぞれ風呂があるがその先の細い通路を通ると半露天風呂で男女一緒になる。ただし風呂は仕切られている。この風呂が素晴らしく源泉掛け流しで温度が熱くもぬるくもなく絶妙である。前は解放され外から金木犀の匂いが漂ってくる。至福のひと時である。この温泉はベストの温泉に入る。夕食は神戸牛の会席を頼んだ。夕食の6時までグデグデしている。一階の食事処へ行く。私たちが一番であった。鉄板で肉を用意している。「その肉は私たちの肉か」と聞くと「そうです」と返事。まず大きな木箱にお造り、キノコのナムル、秋刀魚の旨煮、クリームチーズスモークサーモン巻き、牛しぐれ煮、サツマイモ葛豆腐牛しぐれ煮、サツマイモ葛豆腐が入って出てきます。鉄板を見るとすでに肉を焼いている。次は南京のスープが出る。サラダも出る。ここでステーキが出てくる。こんなに長い時間焼いて大丈夫かなと思いたが、出てきた肉を見ると焦げてはいない。成る程低温調理であった。肉は120gで焼き野菜とニンニクチップ、わさびとともに出てくる。調味料は醤油、岩塩、生姜味噌。絶品である。さすが神戸牛である。そのあとご飯と味噌汁、お漬物が出て最後はほうじ茶のパナコッタとフルーツの盛り合わせである。大満足、ショップによって小皿を5枚買う。「陶泉 御坊所」というぐらいであるからここで使われる陶器のお皿はセンスがとても良い。部屋に戻り、風呂へ行きすぐに寝る。

10月19日

5時起床、すぐに風呂へ行く。部屋に置いてあるマッサージチェアでくつろぐ。7時にもう一度風呂へ行き、8時に朝食を食べに行く。炭火入り木箱に入った湯豆腐（黒豆）、炭火入り木箱に入った海苔、温泉卵、ヤナギカレイの干物、サラダ、味噌汁、巨大梅干しとお新香などで食べる。やはり旅館の朝食は良い。9時にチェックアウトしてポートピアにある動物園へ「ヤブ犬」を見に行くがなんと休園日であった。がっかりしてポートピアホテルへ行く。ユーマンの気分を味わう（残念ながら昼で霧雨ではない）。今日は妻の要望で動物園めぐりである。次の目的地五月山動物園へ向かう。ウォンバットを見るためである。結構遠い。動物園はとても小さい。なんと入園料は無料で、駐車場も1時間以内なら無料である。ほとんど人はいないが園児が来ていた。ウォンバットはここにしか居ない。ほとんどの人はウォンバットの檻の前にいる。とても面白い動物である。最後のカトリック玉造教会（高山右近・細川ガラシャ）へ行く。とても立派な教会でステンドグラスがとても綺麗である。普通正面にはキリスト像があるが正面には堂本印象画伯の聖母マリアの画が飾られている。その左右にも高山右近と細川ガラシャの画が飾られている。すぐ後ろの公園に細川ガラシャの最期の地である屋敷跡（台所）がある。まだ時間はだいぶ早いだが

ソリンを入れてレンタカーを返却する。帰りのひかりは 17 時であるが早めのひかりに変えてもらい、串カツのタレと弁当を買い東京へ。